

令和4年度 第75回全国高等学校バスケットボール選手権大会(SoftBank ウィンターカップ2022)

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和4年度 第75回全国高等学校バスケットボール選手権大会(SoftBank ウィンターカップ2022)						
●日程	令和4年12月23日 (金) ~ 令和4年12月29日 (木)						
●会場	東京体育館・大田区総合体育館						
●講師	平原 勇次様(大会審判副委員長・審判担当) 緒方 崇様(大会審判副委員長・審判担当) 谷古宇 孝様(大会運営本部委員・審判担当)						
●スケジュール	令和4年12月23日 (金) 9:00 会場(東京体育館)到着・審判控室集合 9:10 各自更衣・ウォーミングアップ 9:50 PGC 10:25 コートin・コートインスペクション 10:40 ゲーム開始						
●担当試合	令和4年12月23日 (金) 10:40 ~ 女子1回戦 会場: 東京体育館 対戦カード 福島東稜高等学校(福島県) VS 桜花学園高等学校(愛知県) 主審 CC 渡邊 謙氏(栃木県) U1 石川 U2 石黒 俊氏(東京都) 講師／主任 IRIは配置がなく、CCの渡邊様から下記のご講評をいただきました。						
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを通して、クルーウーも良く、メカニクスについても共通認識を持って、それぞれのプライマリからしっかりと判定をしていたので、ゲーム全体も大きな問題・トラブルなく、ゲームを無事に終了できることができたことがとても良かったと思う。 ・福島東稜の外国人プレイヤーに対して、1Qの早い段階で明らかなファウルをきちんと取りあげ、GoodCallでありかつゲームにも効果的であった。 ・ローテーションのタイミングについても特に大きな問題はなかったと思う。メカニクスがミスなくしっかりとていたから、プライマリからの判定が多く、特に3番手からの無理した判定がなかったのも良かったと思う。今後も継続してほしい。 ・私も石黒氏もそれぞれ1つずつ、Lからクロスコール込みにショットファウルを取りあげたケースを反省点として挙げた。それについて、渡邊様は「ゲームにおいて無駄な笛は何1つない」と教えていただき、「自分が無駄な笛を入れたと感じた後、ゲーム中や次のゲームで修正をすれば、その笛は決して無駄な笛ではなくなり、次につながる笛になる。その積み重ねが大切である。」と教えていただきました。そのことは自分自身で理解していましたが、改めてゲームの反省点・修正の積み重ねが大切なことで、そのことが自分自身の現状の力量であることを再確認できたアドバイスをいただきました。 					
	自己の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・PGCも比較的短時間で行ったが、CCの渡邊様をはじめクルーの協力もあり、ゲーム全体では、チーム・TO・クロック管理も含めて大きなトラブルもなく、ゲームを無事に終えられたと感じている。 ・PGCでは、特にCが一人で見ることを極力減らすために、Cに任せきりにするのではなく、Lもクローズダウンに留まり、判定に参加して、オープンに広がらないようにしてすることをクルーで確認した。(LとCの連携・協力) (自分もLの時にそのような傾向があるので、この内容は改めて再確認できた。) ・福島東稜の外国人プレイヤーへの対応に神経を遣ったが、クルー全体で外国人プレイヤーにコミュニケーションを取り、フラストレーションをためさせないように対応できたと思う。 ・ミッドレーンでのプレーに対する判定も反省点であった。私がTの時に2つオフボーラーのプレーで、オフェンスファウルがあり、2つともCがコールした。Cから始まったプレーではあり、Tの私自身が目が当たっていなかっただけではないが、判定につなげるまでには薄い部分があったところが反省点であった。プライマリの理解と一つひとつの判定の積み重ねの大切さを痛感した試合であった。 ・本大会で自分の力量発揮できることははある程度できたことは大きな収穫でした。ただ、プライマリの理解(特にT・Cでミッドレーンでのプレー、LでCサイドでの判定)については課題も残りました。今後の審判活動の中で課題克服に取り組んで参ります。 ・コロナ禍の中での本大会開催にあたり、JBA前田委員長、審判担当平原様・緒方様・谷古宇様、開催地東京都のみなさまには、ご準備から本大会の運営と本当にお世話になり、みなさまのご尽力のおかげで本大会の審判を担当することができ、新たな発見・学びの場となりました。改めて感謝申しあげます。 ・最後になりましたが、派遣に関してご高配を賜り、貴重な経験をさせていただきましたことに、細見委員長をはじめ、大阪府協会審判委員会のみなさまに改めて感謝申しあげます。この貴重な経験を今後の審判活動に生かし、S級昇格を目指して真摯に審判活動に取り組んで参ります。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申しあげます。本当にありがとうございました。 					